

教科	科目	学科	学年	単位数	使用教科書	使用副教材
国語	現代の国語	普通科	1年	2単位	現代の国語 (大修館書店)	新版カラー版新国語便覧 (第一学習社)

学習の到達目標	<p>言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1) 実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けるようにする。</p> <p>(2) 論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。</p> <p>(3) 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。</p>
----------------	--

評価の観点と評価方法		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けている。	「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」の各領域において、論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりしている。	言葉を通して積極的に他者や社会に関わったり、ものの見方、感じ方、考え方を深めたりしながら、言葉がもつ価値への認識を深めようとしているとともに、読書に親しむことで自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもとうとしている。
定期考査 など	定期考査(記述問題)、レポート、パフォーマンス評価など	レポート(内容評価) スピーチ・討論等の活動 など

月	学習項目	学習内容および評価規準	知	思	主
4	<p>1 明日をひらく 「白紙」</p> <p>「伝える、伝え合う」</p> <p>2 要点をつかむ 「水の東西」 -文章の要点をつかむ-</p>	<ul style="list-style-type: none"> 言葉の意味内容をあらためて考え、認識や思考と言葉との関係を理解している。 読書の経験が読者の考え方に大きな影響を与え得ることについて理解を深めている。 「読むこと」において、エッセイを読み、内容や構成、論理の展開などについて叙述をもとに的確にとらえ、要旨や要点を把握している。 問いに向かう姿勢を振り返り、自力で考えることを大切にしようとしている。 正確さ、分かりやすさ、適切さ、敬意と親しさなどに配慮した表現を理解している。 「話すこと・聞くこと」において、相手の理解が得られるように表現を工夫している。 「やさしい日本語」に興味をもち、相手や目的に応じた言葉の使い方を積極的に考えようとしている。 比喩、例示、言い換えなどの修辞や、直接的な述べ方や婉曲的な述べ方について理解し使っている。 個別の情報と一般化された情報との関係について理解している。 「読むこと」において、文章の種類をふまえて、内容や構成、論理の展開などについて叙述を基に的確にとらえ、要旨や要点を把握している。 積極的に、学習課題に沿って、具体や抽象、対比の関係をとらえようとしている。 	○	○	○
5	<p>3 的確に伝える</p> <p>【話す・聞く】 伝わるように話す</p>	<ul style="list-style-type: none"> 話し言葉の特徴や相手に配慮した表現について理解している。 「話すこと」において、話し言葉の特徴を踏まえ、相手が理解しやすいように表現を工夫して話している。 口頭での説明を通して、話し言葉の特徴をふまえて、相手が理解しやすい 	○	○	○

月	学習項目	学習内容および評価規準	知	思	主
	<p>【書く】 わかりやすく書く</p> <p>社会への視点① 「さまざまな規約」</p>	<p>い表現を粘り強く工夫する中で、自らの学習を調整しようとしている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・書くべき材料のそれぞれの関係や全体の構造について理解している。 ・「書くこと」において、目的や意図に応じた適切な材料や表現形式を選んでいる。 ・説明を書くことを通して、材料同士の関係や全体の構造に注意しながら、目的や意図に応じて適切な材料と形式を粘り強く選び、表現する中で、自らの学習を調整しようとしている。 ・実社会において理解したり表現したりするために必要な語句の量を増している。 ・「書くこと」において、実社会の中から適切な題材を決め、集めた情報の妥当性を吟味している。 ・進んで、叙述を基に文章の内容を的確にとらえ、学習課題に沿って、内容や形式について批評しようとしている。 	○	○	○
6	<p>4 意見を示す 【話す・聞く】 発想を広げる</p> <p>【書く】 意見を書く</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・出されたアイデアのそれぞれの関係を理解している。 ・「話すこと・聞くこと」において、様々な観点から情報を整理し、内容を検討している。 ・アイデアを出したり表現したりすることを通して、アイデア同士の関係をふまえた様々な観点から粘り強く検討して発想をさらに広げる中で、自らの学習を調整しようとしている。 <p>・文例および自分の作文において主張と根拠とを指摘できている。</p> <p>・「書くこと」において、論理展開を工夫し、読み手が理解しやすい文章が書けている。</p> <p>・意見文の相互評価および単元の総括をとおして、学習の状況を積極的に把握しようとしている。</p>	○	○	○
7	<p>5 論理をとらえる —文章の論理をとらえる 「動的平衡としての 生物多様性」</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・主張と論拠などの情報と情報の関係や、推論のしかたについて理解している。 ・「読むこと」において、本文における情報の関係に注意しながら、内容や論理の展開について叙述をもとに的確にとらえている。 ・論理的な文章を読むことを通して、情報の関係や推論のしかたに注意しながら内容や展開を把握することに粘り強く取り組む中で、自らの学習を調整しようとしている。 	○	○	○
9 1 2	<p>6 魅力的に伝える 【話す・聞く】 工夫して話す</p> <p>【書く】 魅力的な紹介文を書く</p> <p>7 資料を駆使する —資料と文章の関係を 掴む 「安くておいしい国」 の限界</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・話し言葉と書き言葉の特徴や役割、表現の特色を踏まえ、正確さ、分かりやすさ、適切さなどに配慮した表現を理解している。 ・「話すこと」「聞くこと」において、自分の考えが的確に伝わるよう、話の構成や展開を工夫すること。 ・「話すこと」「聞くこと」において、話の内容や構成、論理の展開、表現の仕方を評価する。 ・積極的に、学習課題に沿って表現の工夫をしたり、話したり聞いたりする活動を行い適切な評価を行おうとしている。 <p>・話し言葉と書き言葉の特徴や役割、表現の特色をふまえ、正確さ、分かりやすさ、適切さ、敬意と親しさなどに配慮した表現や言葉遣いについて理解し、使うこと。</p> <p>・「読み手の理解が得られるよう、論理の展開、情報の分量や重要度などを考えて、文章の構成や展開を工夫すること。</p> <p>・積極的に、学習課題に沿って表現の工夫をしたり、話したり聞いたりする活動を行い適切な評価を行おうとする。</p> <p>・文章と図表の情報がどのような対応関係にあるかを理解している。</p> <p>・「読むこと」において文章や図表などに含まれている情報を相互に関連づけながら内容を解釈するとともに、自分の考えを深めている</p> <p>・図表を伴う文章を読むことを通して、それぞれの情報を相互に関連づけて内容を粘り強く解釈し、自分の意見を深める中で、自らの学習を調整しようとしている。</p>	○	○	○

月	学習項目	学習内容および評価規準	知	思	主
	<p>【書く】 統計資料をもとに意見を書く</p> <p>8 他者と交流する 【話す・聞く】 目的に合った質問をする</p> <p>【書く】 状況に応じた通信文を書く</p> <p>9 情報を比較する －文章を比較して読む－ 「美しさの発見」について</p> <p>10 他者を動かす 【書く】 説得力のある資料をつくる 【話す・聞く】 資料を用いて発表する 社会への視点② さまざまな広告</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・根拠として統計資料を引用することの必要性を理解している。 ・「書くこと」において、主張を支える根拠として統計資料から適切な情報を抽出できている。 ・意見文の振り返りおよび単元の総括をとおして、学習の状況を積極的に把握しようとしている。 ・個別の情報を一般化したり、一般化された抽象的な情報を具体化したりしている。 ・「話すこと・聞くこと」において、質問をしつつ論理展開を予想しながら相手の回答を聞き、聞き取った情報を整理している。 ・得られる情報や効果を意識しながら質問をしつつ、自分自身の質問の仕方について積極的に振り返ろうとしている。 ・通信文に適した語彙を身につけ、使いこなしている。 ・「書くこと」において、目的達成のために媒体の特徴を生かした表現を考えて工夫している。 ・媒体ごとの体裁/特徴や適切な語彙を理解した上で、読み手の目線から最適な表現を試みようとしている。 ・個別の情報と一般化された情報との関係について理解している。 ・「読むこと」において、目的に応じて、文章に含まれている情報を相互に関係付けながら、内容や書き手の意図を解釈したり、文章の構成や論理の展開などについて評価したりするとともに、自分の考えを深めている。 ・複数の文章を比較して読むことに意欲をもち、共通点や相違点をとらえようとしている。 ・実社会において理解したり表現したりするために必要な語句の量を増すとともに、語句や語彙の構造や特色、用法および表記の仕方などを理解し、話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。 ・主張と論拠など情報と情報との関係について理解している。 ・「書くこと」において、自分の考えやことがらが的確に伝わるよう、根拠の示し方や説明のしかたを考えるとともに、文章の種類や、文体、語句などの表現のしかたを工夫している。 ・積極的に、課題に沿った「提案に必要な要素」を挙げようとしている。 	○	○	○
1 ～ 3	<p>11 主張を吟味する －根拠を吟味して読む 「贅沢を取り戻す」</p> <p>【書く】 文章を読み取って主張を書く</p> <p>【話す・聞く】 討論をする</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・情報の妥当性や信頼性の吟味のしかたについて理解を深め使っている。 ・「読むこと」において、目的に応じて、文章や図表などに含まれている情報を相互に関係付けながら、内容や書き手の意図を解釈したり、文章の構成や論理の展開などについて評価したりするとともに、自分の考えを深めている。 ・情報の信頼性や妥当性を吟味しながら読もうとしている。 ・読み手に伝わりやすい主張の組み立て方について理解している。 ・「書くこと」において、読み手からの評価を踏まえ、自身の意見文の特長・課題を把握している。 ・意見文の振り返りおよび単元の総括を通して、学習の状況を積極的に把握しようとしている。 ・情報の妥当性や信頼性の吟味のしかたについて理解を深め使っている。 ・「話すこと・聞くこと」において、自分の考えが明確に伝わるよう、自分の立場や考えを明確にするとともに、相手の反応を予想して論理の展開を考えるなど、話の構成や展開を工夫している。[A(1)イ] ・「話すこと・聞くこと」において、論理の展開を予想しながら聞き、話の内容や構成、論理の展開、表現のしかたを評価するとともに、聞き取った情報を整理して自分の考えを広げたり深めたりしている。 ・自分や相手の主張や根拠、理由づけの妥当性を確かめる方法を理解し、積極的に使おうとしている。 	○	○	○

月	学習項目	学習内容および評価規準	知	思	主
	<p>1 2 考えを発信する —主体的に読む「白」</p> <p>【話す・聞く】 結論を出すために話し合う</p> <p>【書く】 レポートを書く</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・主張の根拠の信頼性や妥当性について、確かめたり吟味したりしている。 ・「読むこと」において、目的に応じて文中の情報を関連付けながら内容や書き手の意図を解釈し、自分の考えを深めている。 ・積極的に、自分の目的に応じた情報を文章から取り出し、自分の考えを形成したり修正したりすることに活用しようとしている。 <ul style="list-style-type: none"> ・主張と論拠など情報と情報との関係について理解している。 ・「話すこと・聞くこと」において、論点を共有し、考えを広げたり深めたりしながら、話し合いの目的、種類、状況に応じて、表現や進行など話し合いの仕方や結論の出し方を工夫している。 ・結論を出すための話し合いの工夫について理解し、その後の学習活動や学校生活に生かそうとしている。 <ul style="list-style-type: none"> ・文、話、文章の効果的な組立て方や接続の仕方について理解している。 ・引用の仕方や出典の示し方、それらの必要性について理解を深め使っている。 ・「書くこと」において、自分の考えや事柄が的確に伝わるよう、根拠の示し方や説明の仕方を考えるとともに、文章の種類や、文体、語句などの表現の仕方を工夫している。 ・レポートを書くことを通して、文、話、文章の効果的な組立て方や接続の仕方について理解を深め、自分の考えや事柄が的確に伝わるよう、根拠の示し方や説明の仕方を粘り強く考える中で、自らの学習を調整しようとしている。 	○	○	○
			○	○	○
			○	○	○

教科	科目	学科	学年	単位数	使用教科書	使用副教材
国語	言語文化	普通科	1年	3単位	精選言語文化(東京書籍)	新版カラー版新国語便覧 (第一学習社)

学習の到達目標	<p>言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1) 生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めることができるようにする。</p> <p>(2) 論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。</p> <p>(3) 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。</p>
----------------	--

評価の観点と評価方法		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めることができる。	「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」の各領域において、論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりしている。	言葉を通して積極的に他者や社会に関わったり、ものの見方、感じ方、考え方を深めたりしながら、言葉がもつ価値への認識を深めようとしているとともに、読書に親しむことで自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもとうとしている。
定期考査 小テスト など	定期考査 ワークシート ノート提出 など	授業態度 ノート・課題提出 自己評価 など

月	学習項目	学習内容および評価規準	知	思	主
4	読む 「児のそら寝」 ●古文学習のしるべ1 古文の言葉と仮名遣い ●古文学習のしるべ2 古語を調べるために 読む 「絵仏師良秀」	<ul style="list-style-type: none"> 進んで歴史的仮名遣いについて理解し、学習課題に沿って説話のおもしろさを読み取るようとしている。 古典の世界に親しむために、古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまり、古典特有の表現などについて理解している。 	○		○
5	●古文学習のしるべ3 係り結び／仮定条件 と確定条件 小説1 「羅生門」	<ul style="list-style-type: none"> 古典の世界に親しむために、古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまり、古典特有の表現などについて理解している。 極限状態にある登場人物の心情の変化を、場面の展開に即して読み取り、主題について考える。 「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開などについて叙述を基に的確に捉えている。 描かれている内容についての見解をまとめるとともに、発表や討論を通じて得た意見を踏まえて考えを深めようとしている。 翻案作品を原作と読み比べ、相違点を読み取り、主題について自分の考えを文章に表している。 	○	○ ○	○ ○

月	学習項目	学習内容および評価規準	知	思	主
6	<p>読む 「訓読の基本」 訓読・格言・再読文字 〔言語〕 漢字の読みと意味―漢 和辞典を活用しよう</p> <p>読む 「故事成語―三編〔言 語〕」 「矛盾・助長・推敲」 ■漢文の窓1 『韓非子』の寓話の ねらい ■漢文の窓2 「助字」―漢文理解の 鍵</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・進んで漢文の特色や訓読のきまりを理解し、見通しを持って、古典を学ぶ意味について考えを持つようとしている。 ・古典の世界に親しむために、古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまり、古典特有の表現などについて理解している。 ・言葉には、文化の継承、発展、創造を支える働きがあることを理解している。 ・「読むこと」において、作品や文章の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえ、内容の解釈を深めている。 	○		○
7	<p>読む 「徒然草」〔言語〕 「ある人、弓射ることを習ふに」 「九月二十日のころ」</p> <p>読む 寓話―三編 「借虎威」 「朝三暮四」 ■漢文の窓3 名前の表し方</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・言葉には、文化の継承、発展、創造を支える働きがあることを理解している。 ・古典の世界に親しむために、作品や文章の歴史的・文化的背景などを理解している。 ・「読むこと」において、作品や文章に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈している。 ・我が国の言語文化に特徴的な語句の量を増し、それらの文化的背景について理解を深め、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。 	○	○	○
9	<p>読む 「伊勢物語」 ●古文学習のしるべ4 和歌の解釈 「芥川」「筒井筒」「梓弓」 〔言語〕『伊勢物語』と 絵画・工芸 ■古文の窓3 恋愛と結婚</p> <p>読む 「土佐日記」 「馬のはなむけ」</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・進んで歌物語の特徴や表現の仕方について理解し、学習課題に沿って、各章段に描かれた内容を的確に捉えようとしている。 ・我が国の言語文化に特徴的な語句の量を増し、それらの文化的背景について理解を深め、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。 ・進んで古典を元にした絵画・工芸について理解し、学習課題に沿って、文章の内容を捉え直そうとしている。 ・古典の作品に親しむために、作品や文章の歴史的・文化的背景などを理解している。 ・「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開などについて叙述を基に的確に捉えている。 	○		○

月	学習項目	学習内容および評価規準	知	思	主
10	<p>■古文の窓 4 吉日・吉方と旅立ち 「帰京」</p> <p>読む 「一つのメルヘン」 読む 「I was born」 読む 「あいだ」</p> <p>■現代文の窓 I 文語定型詩から口語自由詩へ</p> <p>■古文の窓 5 和語と漢語 読む 「絶句と律詩—八首」 〔言語〕 「鹿柴・春暁・春暁」 「送元二使安西・黄鶴 楼送孟浩然之広陵・涼 州詞】【春望】【香炉峰 下】「雑説」</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・古典の世界に親しむために、古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまり、古典特有の表現などについて理解している。 ・詩の構成や表現技法について理解している。 ・「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開などについて叙述を基に的確にとらえている。 ・音読を通して詩のリズムや効果を退官し、作者の心情について考えを深めている。 ・「読むこと」において、作品の内容や解釈を踏まえ、自分のものの見方、感じ方、考え方を深め、我が国の言語文化について自分の考えをもっている。 ・文章の構成や漢文特有の表現を理解できる。 ・学習課題に沿って、描かれた状況をふまえて作者の主張について考えようとしている。 	○	○	○
12	<p>読む 史話—三編 〔言語〕 「晏子之御」「管鮑之交」 「臥薪嘗胆」</p> <p>■漢文の窓 5 交友論</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・我が国の言語文化に特徴的な語句の量を増し、それらの文化的背景について理解を深め、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。 ・「読むこと」において、作品の内容や解釈を踏まえ、自分のものの見方、感じ方、考え方を深め、我が国の言語文化について自分の考えをもっている。 	○	○	
1	<p>読む 「平家物語」 「木曾の最期」</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・進んで軍記物語特有の表現などについて理解し、学習課題に沿って、登場人物の描かれ方を読み取ろうとしている。 			○
1	<p>読む 「奥の細道」 「漂泊の思ひ」「平泉」</p> <p>読む 論語—十一章 「学問を語る」 「人生を語る」 「政治を語る」</p> <p>中国と日本『論語』の注釈を読む</p> <p>書く 〔言語〕「孔門の十哲」 名鑑を作る</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・進んで文章の構成や展開について理解し、学習課題に沿って、作品に込められた作者の思いを読み取ろうとしている。 ・進んで自分のものの見方、考え方を深め、学習課題に沿って、『論語』を読んで、孔子の学問観・人間観・政治観について考えたり、『論語』の注釈を読んで、自分の考えを伝え合ったりしようとしている。 ・「読むこと」において、作品や文章の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえ、内容の解釈を深めている。 ・「書くこと」において、自分の知識や体験の中から適切な題材を決め、集めた材料のよさや味わいを吟味して、表現したいことを明確にしている。 		○	○
2	<p>読む 「鏡」</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開などについて叙述を基に的確にとらえている。 ・「読むこと」において、作品や文章の成立した背景やほかの作品などの関係を踏まえ、内容の解釈を深めている。 ・進んで本文の内容や構成、展開などを考え、学習課題に沿って、細やかな描写や主人公の心情の変化に注意して、小説を読み味わおうとしている。 		○	○

富山県立氷見高等学校

教科	科目	学科	学年	単位数	使用教科書	使用副教材
国語	現代の国語	海洋科学科、 農業科学科、 ビジネス科、 生活福祉科	1年	3単位	新編現代の国語 (大修館)	カラー版新国語便覧(第一学習社) 現代の国語学習ノート(大修館)

学習の到達目標	<p>言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語での確効果的にかつ効果的に表現する能力を育成し、国語の向上や社会生活の充実を図る態度を育てるために次のことを目指す。</p> <p>(1) 実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けるようにする。</p> <p>(2) 論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。</p> <p>(3) 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。</p>
----------------	---

評価の観点と評価方法		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けている。	「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」の各領域において、論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりしている。	言葉を通して積極的に他者や社会に関わったり、ものの見方、感じ方、考え方を深めたりしながら、言葉がもつ価値への認識を深めようとしているとともに、読書に親しむことで自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもとうとしている。
定期考査 など	定期考査 ワークシート発表内容 など	授業態度 ノート提出 自己評価 など

月	学習項目	学習内容および評価規準	知	思	主
4	<p>1 ことばをひらく</p> <p>ことばの学びに向けて「コミュニケーションは技術だ」</p> <p>「変わる」ことを楽しもう</p> <p>2 日本語を使いこなす話す・聞く</p> <p>「正しく書こう」</p>	<ul style="list-style-type: none"> 筆者のコミュニケーションに対する考え方を読み取る。 コミュニケーションを上達させていくことに興味をもつ 筆者の主張と自分の体験や意見を関連づけようとしている。 「変わる」ことについて筆者の考えを読み取り、高校生活を始めるにあたっての参考にする。 本文中の「変わる」という語句に印をつけ、筆者が肯定的にとらえていることをつかませる。 「物事のスピードが速く、多様化した今の時代」の身近な例を示し、学習内容に興味をもたせる。 あいまいな文や長くてわかりにくい文を避け、簡潔でわかりやすい文を書く。 文章で物事を伝えるために、適切な表記や正しい係り受けの関係で表現し、「力だめしに挑戦」でおおむね正解している。 意欲的に学習に取り組み、教科書以外の例文を考えた 	○	○	○
			○	○	○

	「文を整え、文をつなぐ」	<p>り、今後の学習に生かしたりしようとしている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・あいまいな文や長くてわかりにくい文を避け、簡潔でわかりやすい文を書く。 ・接続表現を使いこなし、論理的でわかりやすい文章を書く。 ・お互いに問題を創作して出し合ったり、クイズ合戦のようにしてグループで競い合ったりするなど、楽しく学習に取り組むことを促す。 	○		○	
5 ~ 6	<p>「伝わるように話そう」</p> <p>5 論理を読み取る 商品と贈り物の違い」</p> <p>「水の東西」</p> <p>3 わかりやすく説明する 説明のしかたをとらえよう 「人間はゴリラとチンパンジーのどちらに近いか」</p> <p>「ナンバーワンか、オンリーワンか」</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・相手に伝えたいことを、わかりやすく整理して話す。 ・積極的に分かりやすさ、適切さに配慮した表現を理解し、学習課題に沿って相手の反応を予想して、話の構成や展開を工夫して、自分の考えを発表し、論ずる活動しようとしている。 ・具体例が何を意図するものかを理解している。 ・具体例や対比の効果について、教科書を参照させたり、身近な会話例などで実感させたりする。 ・普段の会話においても具体例や対比を用いて主張を支えていることなどを示し、その役割に興味をもたせる。 ・鹿おどしと日本人の美意識、噴水と西洋の美意識という、具体と抽象の関係を理解している。 ・比喩の意図について、教科書の図版を参照させたり、具体的なイメージがもてるようなヒントを示したりする。 ・普段の会話においても具体例を用いて主張を支えていることなどを示し、具体例の役割に興味をもたせる。 ・順序を表す言葉や接続表現の働きを理解している。 ・全体のおおまかな構成を理解している。 ・順序を表す言葉や接続表現の働きなどに興味をもち、積極的に説明のしかたについて理解しようとしている。 ・接続表現の働きを理解している。 ・二つの図と本文の関係を理解している。 ・日常生活で使用される接続表現などを例に挙げ、その大切さに気づかせる。 	○		○	○
			○		○	○
			○		○	○
			○		○	○

7	<p>6 伝え合いのレッスン 「対話のレッスン」</p> <p>7 説得力を高める 書く 「意見文の基礎を学ぼう」</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 目的に応じて情報を収集、整理し、自分の立場や考えを明確にして、構成や展開を工夫しながら話している。 ・ 議論の広げ方や深め方、結論の出し方を工夫して話している。 ・ 話し合いの活動に興味をもち、よりよい話し合いをしようとしている。 ・ 意見文とは何かを知り、意見と理由（根拠）を書くことを理解している。 ・ 基本的な意見文の構成を理解し、理由（根拠）を二つ入れた意見文を書いている。 ・ 進学や就職の際の小論文や、レポート、論文など、意見文を書く力が今後極めて大切であることを伝え、やる気を引き出す。 	○	○	○
9	<p>「反対意見を想定した意見文を書こう」</p> <p>「ミニ討論会をしよう」</p> <p>読書の広場 「極北へ」</p> <p>「ももこのいきもの図鑑」</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 反対意見を想定し、それに対する反論（打ち消し）を示すことについて、おおむね理解している。 ・ 反対意見を想定した意見文の構成を理解し、その構成に沿って意見文を書いている。 ・ 反対意見を想定することの大切さを理解し、自説に対する反対意見をできるだけ多く考えようとしている。 ・ 主張と根拠の関係を意識し、論理的な意見の述べ方や反論のしかたについて理解している。 ・ 自分の立場や意見を明確にし、根拠を示しながら意見を述べている。 ・ 討論をすることに興味をもち、意欲的に取り組もうとしている。 ・ 自然や冒険などを題材にしたノンフィクションというジャンルについて理解している。 ・ 野田知佑さんとの出会い、星野道夫さんの本との出会いから筆者が受けた影響を読み取っている。 ・ 筆者についての情報を紹介したり、おすすめのノンフィクションを紹介したりして、興味をもたせる。 ・ おもしろいと感じるところに着目させて、それがなぜおもしろいのかについて考えさせる。 ・ 筆者やその作品についての知識をもち、エッセイというジャンルについて理解している。 ・ 筆者の着眼点、話の展開のしかた、文体、表現上の工夫などのおもしろさを理解し、味わっている。 	○	○	○

10	<p>8 情報と向き合う 「情報を吟味しながら読もう」</p> <p>「情報の力関係」</p>	<ul style="list-style-type: none"> ワーク 2 において、主張と根拠のつながりの妥当性について理解している。 ワーク 1 において、文章と写真を関連づけて読み、視点によって解釈が異なることを理解している。 目的に応じて、文章や図表などから必要な情報を意欲的に読み取ろうとしている。 情報を構成する要素には文字・図形・絵などがあり、それぞれに力関係が生じることを理解している。 図と文章とを結びつけて内容を理解し、読み取ったことをふまえて自分の考えをもっている。 情報を構成する要素の力関係に興味をもち、筆者の主張を積極的に読み取ろうとしている。 	○	○	○
11	<p>「世界は私にほほえんでいる」</p> <p>「レポートを書こう」</p>	<ul style="list-style-type: none"> 筆者の主張に対して、ロブマイヤーの実験が根拠になっていることを理解している。 図の内容と意図を理解し、筆者の主張をどのように支えているかを読み取っている。 図との関係に注意しながら、筆者の主張を読み取ろうとしている。 横書きの文章の書き方、引用のルール、参考文献の示し方などを理解している。 情報の信頼性や妥当性を考えながら、集めた情報を適切に整理し、読み手を意識して論の展開、構成を考えている。 情報収集や情報の吟味をしてレポートを書くことに、意欲的に取り組もうとしている。 	○	○	○
12	<p>9 他者を動かす 「魅力的な企画書を書こう」</p> <p>「プレゼンテーションをしよう」</p>	<ul style="list-style-type: none"> 企画書の目的に応じて、企画名やレイアウトを工夫したり、表現や言葉遣いを吟味したりすることの必要性を理解している。 企画のよさが伝わるよう、根拠の示し方や説明のしかたを考え、表現のしかたを工夫している。 企画書を書く活動に興味をもち、意欲的に学習に取り組もうとしている。 プレゼンテーションの目的に応じて、正確でわかりやすい言葉を用いて発表している。 プレゼンテーションの目的に応じて、正確でわかりやすい言葉を用いて発表している。 プレゼンテーションすることに意欲をもち、積極的に学習に取り組んでいる。 	○	○	○

<p>1 ～ 2</p>	<p>10 社会に目を向け て 「自分の考えを深め ながら読もう」</p> <p>「何のために「働 く」のか」</p> <p>「自分の考えをつく るために」</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・筆者の主張とその根拠の関係についておおむね理解している。 ・筆者の主張や文章の内容にもとづきながら自分の考えを述べている。 ・文章の内容をとらえようとするとともに、内容に関して自らの考えをもとうとしている。 <ul style="list-style-type: none"> ・資産家やホームレスなどの話題が、具体例となっていることを理解している。 ・何のために『働く』のかという問いに対する筆者の主張をとらえ、それに対して自分の考えをもっている。 ・筆者の主張とその根拠をとらえようとし、「働く」ことについて自分の考えをもとうとしている。 <ul style="list-style-type: none"> ・個別の情報と一般化された情報の関係についての的確に理解し、その説得力や効果などについて考えている。 ・「考えは他者との関係から生まれる」という主張と、上野村の暮らし、映画や本、魚釣りなどの具体例の関係を、おおむねとらえている。 ・「考えは他者との関係から生まれる」という筆者の主張に対して自分の意見をもっている。 	<p>○</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p>	<p>○</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p>	<p>○</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p>
----------------------	--	---	---	---	---

教科	科目	学科	学年	単位数	使用教科書	使用副教材
国語	言語文化	農業科学科 海洋科学科 ビジネス科 生活福祉科	2年	2単位	新編 言語文化(大修館)	新版カラー版新国語便覧 (第一学習社)

学習の到達目標	言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。
----------------	--

評価の観点と評価方法		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めることができる。	論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができる。	言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養おうとしている。
定期考査 小テスト など	定期考査 ワークシートの内容 など	グループワーク・ペアワークの様子 ワークシートや成果物の内容 自己評価 など

月	学習項目	学習内容および評価規準	知	思	主
4	1 ことばと出会う 「言葉の森を育てよう」 「季節の言葉と出会う」	<ul style="list-style-type: none"> 言葉には、文化の継承、発展、創造を支える働きがあることを理解している。 「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開などについて叙述を基に的確にとらえている。 言葉についての筆者の考えを読み取ることに興味をもち、日常使っている言葉を見つめ直そうとしている。 	○	○	○
4	1 古文に親しむ 「古文への招待」「いろは歌」「児のそら寝」	<ul style="list-style-type: none"> 古典の世界に親しむために、古典を読むために必要な文語のきまり、古典特有の表現などについて理解している。 「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開などについて叙述を基に的確にとらえている。 「読むこと」において、作品や文章に表れているものの見方、感じ方、考え方をとらえ、内容を解釈している。 古文を読むことに興味をもち、積極的に読みに慣れようとしている。登場人物の行動や心情を読み取ろうとしている。 	○	○	○
5	2 表現を味わう 「とんかつ」	<ul style="list-style-type: none"> 文章の意味は、文脈の中で形成されることを理解している。 「読むこと」において、文章の構成や展開、表現のしかた、表現の特色について評価している。 登場人物の人物像や心情を読み取ることに興味をもち、作品の構造を理解しようとしている。 	○	○	○
5	2 随筆を楽しむ 『枕草子』 「うつくしきもの」「にくきもの」	<ul style="list-style-type: none"> 古典の世界に親しむために、古典を読むために必要な文語のきまり、古典特有の表現などについて理解している。 「書くこと」において、自分の知識や体験の中から適切な題材を決め、集めた材料のよさや味わいを吟味して、表現したいことを明確にしている。 「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開などについて叙述を基に的確に捉えている。 「読むこと」において、作品や文章に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈している。 『枕草子』に興味をもち、作者のものの見方や感じ方を読み取り、自分の考えをもとうとしている。 	○	○	○
6	1 古文に親しむ 「十二の『子』文字」	<ul style="list-style-type: none"> 我が国の言語文化の特質や我が国の文化と外国の文化との関係について理解している。 古典の世界に親しむために、古典を読むために必要な文語のきまりや、古典特有の表現などについて理解している。 「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開などについて叙述を基に的確に捉えている。 作品に興味をもち、物語の内容を積極的に読み取ろうとしている。漢字の読みの多様性について関心を深めようとしている。 	○	○	○

月	学習項目	学習内容および評価規準	知	思	主
6	1 ことばと出会う 「漢字と仮名の使い分け」	<ul style="list-style-type: none"> 我が国の言語文化に特徴的な語句の量を増やし、それらの文化的背景について理解を深め、文章の中で使うことを通して語感を磨き、語彙を豊かにしている。 我が国の言語文化の特質や我が国の文化と外国の文化との関係について理解している。 「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開などについて叙述をもとに的確にとらえている。 日本語の表記の特色や独自性について学習した内容をもとにして、自らの言語感覚を磨き、語彙を増やそうとしている。 	○	○	○
7	2 現代に生きることば 「守株」「五十歩百歩」	<ul style="list-style-type: none"> 古典の世界に親しむために、古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまり、古典特有の表現などについて理解している。 「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開などについて叙述を基に的確に捉えている。 「読むこと」において、作品や文章に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈している。 漢文に興味をもち、漢文を読む学習に意欲的に取り組み、故事成語の理解を深めようとしている。 	○	○	○
9	3 文化を見つめる 「足し算の文化」	<ul style="list-style-type: none"> 我が国の言語文化の特質や我が国の文化と外国の文化との関係について理解している。 「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開などについて叙述を基に的確にとらえている。 日本文化の特徴について筆者の主張をとらえることに興味をもち、日本文化の特色について理解を深めようとしている。 	○	○	○
9	9 詩歌の調べ	<ul style="list-style-type: none"> 詩歌に親しみ、理解するために必要な文語のきまりや訓読のきまり、詩歌の形式、古典特有の表現などについて理解している。 「書くこと」において、自分の体験や思いが効果的に伝わるよう、文章の種類、構成、展開や、文体、描写、語句などの表現のしかたを工夫している。 「読むこと」において、作品や文章に表れているものの見方、感じ方、考え方をとらえ、内容を解釈している。 四季の詩歌を読むことに興味をもち、詩の形式や表現の特徴を意識しながら、情景や心情を味わおうとしている。 	○	○	○
10	4 物語を受け継ぐ 「羅生門」	<ul style="list-style-type: none"> 常用漢字の読みに慣れ、主な常用漢字を書き、文や文章の中で使っている。 我が国の言語文化への理解につながる読書の意義と効用について理解を深めている。 「読むこと」において、作品や文章に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈している。 「読むこと」において、文章の構成や展開、表現の仕方、表現の特色について評価している。 言葉がもつ価値への認識を深め、言葉をとおして他者や社会に意欲的に関わろうとしている。 	○	○	○
11	3 物語の広がり 『伊勢物語』『芥川』 「あづま下り」	<ul style="list-style-type: none"> 古典の世界に親しむために、古典を読むために必要な文語のきまり、古典特有の表現などについて理解している。 「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開などについて叙述を基に的確に捉えている。 「読むこと」において、文章の構成や展開、表現の仕方、表現の特色について評価している。 作品に興味をもち、登場人物の行動や場面の展開、和歌に表れた心情を読み取ろうとしている。 	○	○	○
11	2 現代に生きることば 「蛇足」	<ul style="list-style-type: none"> 古典の世界に親しむために、古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまり、古典特有の表現などについて理解している。 「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開などについて叙述を基に的確に捉えている。 「読むこと」において、作品や文章に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈している。 漢文に興味をもち、漢文を読む学習に意欲的に取り組み、故事成語の理解を深めようとしている。 	○	○	○
11	5 ことばと生きる 「祖母が笑うということ」	<ul style="list-style-type: none"> 文章の意味は、文脈の中で形成されることを理解している。 「読むこと」において、文章の構成や展開、表現の仕方、表現の特色について評価している。 作品に興味をもち、場面の様子や人物の心情を想像したり文章表現を味わったりしようとしている。 	○	○	○

月	学習項目	学習内容および評価規準	知	思	主
1 2	5 ことばと生きる 「ことばは光」	<ul style="list-style-type: none"> 文章の意味は、文脈の中で形成されることを理解している。 「読むこと」において、文章の構成や展開、表現のしかた、表現の特色について評価している。 筆者の経験やものの見方を読み取ることに興味をもち、自分の考えを深めようとしている。 	○	○	○
1 2	3 物語の広がり 『平家物語』『木曾の最期』	<ul style="list-style-type: none"> 言文一致体や和漢混交文など歴史的な文体の変化について理解を深めている。 「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開などについて叙述を基に的確に捉えている。 「読むこと」において、文章の構成や展開、表現の仕方、表現の特色について評価している。 『平家物語』に興味をもち、音読して文体の特徴を味わったり、人物の心情の変化を読み取ったりしようとしている。 	○	○	○
1	6 近代文学に触れる 「夢十夜」	<ul style="list-style-type: none"> 我が国の言語文化に特徴的な語句の量を増し、それらの文化的背景について理解を深め、文章の中で使うことをとおして、語感を磨き語彙を豊かにしている。 我が国の言語文化への理解につながる読書の意義と効用について理解を深めている。 「読むこと」において、文章の構成や展開、表現のしかた、表現の特色について評価している。 作品に興味をもち、作品の表現に注目しながら読もうとしている。 	○	○	○
1	4 漢文を楽しむ 「完璧」「鶏鳴狗盗」	<ul style="list-style-type: none"> 時間の経過や地域の文化的特徴などによる文字や言葉の変化について理解を深め、古典の言葉と現代の言葉とのつながりについて理解している。 「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開などについて叙述を基に的確に捉えている。 漢文に興味をもち、その知恵や教訓を積極的に読み取ろうとしている。 	○	○	○
2	4 旅への思い 『土佐日記』『門出』 『更級日記』『あこがれ』	<ul style="list-style-type: none"> 古典の世界に親しむために、作品や文章の歴史的・文化的背景などを理解している。 「読むこと」において、作品や文章に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈している。 「読むこと」において、作品や文章の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえ、内容の解釈を深めている。 作品に興味をもち、文章の展開や和歌の内容、登場人物の心情を読み取ろうとしている。 	○	○	○
2	6 近代文学に触れる 「形」	<ul style="list-style-type: none"> 文章の意味は、文脈の中で形成されることを理解している。 「読むこと」において、作品や文章の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえ、内容の解釈を深めている。 「読むこと」において、異なる時代に成立した随筆や小説、物語などを読み比べ、それらを比較して論じたり批評したりする活動を通して、内容の解釈を深めている。 作品に興味をもち、場面や登場人物の設定をとらえて小説を味わおうとしている。元になった古典作品との比較に興味をもっている。 	○	○	○